

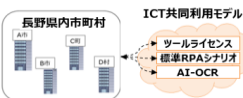




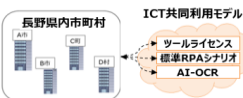


事業番号	02 04 01	<b>事業改善シート（令和3年度実施事業分）</b> □当初要求 □当初予算案 ■補正予算案 □点検			
事業名	地域情報化推進事業費	部局	企画振興部	課・室	D X 推進課
		実施期間	H24 ~	E-mail	<a href="mailto:dx-promo@pref.nagano.lg.jp">dx-promo@pref.nagano.lg.jp</a>
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進		3-7 先端技術の積極的な活用・導入		
	2-6 郷学郷就の産業人材育成・確保				

## 1 現状と課題

目指す姿 これまでの取組	<b>【目指す姿】</b> ○長野県DX戦略（令和2年7月策定）に基づき、Society 5.0時代を見据えて、県全域のDXを行うことで5Gなどのインフラ整備を促進し、長野県を、県民や地場企業に加えて、県外の人や企業にとっても魅力的な地域にすることに資する。 <b>【これまでの取組】</b> ○未来の長野県を担うICT人材の育成を支援するため、若年層向けのアプリケーションコンテスト及びハッカソンを大学、民間企業等と連携して開催。 ○先端技術を活用し、中山間地域のヒト・モノの移動課題を解決するため、AIを活用したデマンドシステムによる実証事業を実施。				
	令和2年度点検結果 (令和元年度実施事業分) 現状分析	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課 題</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           ・現在においても、県内におけるプログラミング教育等のICT利活用の素養と感性を身に付ける機会が少ない状況であり、更なる拡大が必要             ・デマンドシステムの実装に向けては、運用面や費用対効果等、更なる検証が必要         </td> <td>           ・引き続き、県内における若年層のプログラミングの教育機会を確保するため、若年者層を対象としたアプリケーションコンテストの開催等を民間事業者等と連携を図りつつ実施             ・デマンドシステムの実証事業を通して、中山間地域のヒト・モノの移動課題を解決するための交通サービスの在り方について検証を引き続き実施         </td> </tr> </tbody> </table>	課 題	今後の方向性	・現在においても、県内におけるプログラミング教育等のICT利活用の素養と感性を身に付ける機会が少ない状況であり、更なる拡大が必要  ・デマンドシステムの実装に向けては、運用面や費用対効果等、更なる検証が必要
課 題	今後の方向性				
・現在においても、県内におけるプログラミング教育等のICT利活用の素養と感性を身に付ける機会が少ない状況であり、更なる拡大が必要  ・デマンドシステムの実装に向けては、運用面や費用対効果等、更なる検証が必要	・引き続き、県内における若年層のプログラミングの教育機会を確保するため、若年者層を対象としたアプリケーションコンテストの開催等を民間事業者等と連携を図りつつ実施  ・デマンドシステムの実証事業を通して、中山間地域のヒト・モノの移動課題を解決するための交通サービスの在り方について検証を引き続き実施				

## 2 令和3年度事業内容

補正予算のポイント・主な取組 (予定)	<b>○自治体行政スマートプロジェクト事業</b> AI・RPAの共同導入による定型作業の自動化など、ICTを活用した効率的な業務の仕組みを構築するため、市町と共同で、各団体間の業務プロセスの標準化を実証							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>&lt;Step 0&gt;</th> <th>&lt;Step 1&gt;</th> <th>&lt;Step 2&gt;</th> <th>&lt;Step 3&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           業務効率化の活動            ※令和2年度までに実施済             RPA/AI-OCR共同化実証            業務標準化を前提に、システムが異なる場合もRPA/AI-OCRの共同利用可能であることを立証             全庁業務量調査            ・全組織における負荷傾向の把握            ・RPA等ICT適用対象候補の把握         </td> <td>           業務効率化の大きい業務の選定             全庁業務量調査結果に基づく業務選定              業務量調査結果に基づき、高負荷でありICT適用可能かつ標準化対象17業務(住民基本台帳等)から選定。             各団体の業務プロセス・帳票比較         </td> <td>           選定された業務の各団体の事務作業を比較検討             業務スタンス・帳票の最適化に重きを置いた標準化検討              ・団体間の業務スタンスの整合            ・標準化可能範囲の見極め             最適化の実現            実用可能な標準業務プロセス・帳票設定         </td> <td>           効率的な業務の仕組みを構築             ICT共同利用実証によるモデル構築             RPA等共同利用の実証(RPAシナリオ/部品の共同化)             長野県内市町村 ICT共同利用モデル   </td> </tr> </tbody> </table>	<Step 0>	<Step 1>	<Step 2>	<Step 3>	業務効率化の活動 ※令和2年度までに実施済  RPA/AI-OCR共同化実証 業務標準化を前提に、システムが異なる場合もRPA/AI-OCRの共同利用可能であることを立証  全庁業務量調査 ・全組織における負荷傾向の把握 ・RPA等ICT適用対象候補の把握	業務効率化の大きい業務の選定  全庁業務量調査結果に基づく業務選定  業務量調査結果に基づき、高負荷でありICT適用可能かつ標準化対象17業務(住民基本台帳等)から選定。  各団体の業務プロセス・帳票比較	選定された業務の各団体の事務作業を比較検討  業務スタンス・帳票の最適化に重きを置いた標準化検討  ・団体間の業務スタンスの整合 ・標準化可能範囲の見極め  最適化の実現 実用可能な標準業務プロセス・帳票設定
<Step 0>	<Step 1>	<Step 2>	<Step 3>					
業務効率化の活動 ※令和2年度までに実施済  RPA/AI-OCR共同化実証 業務標準化を前提に、システムが異なる場合もRPA/AI-OCRの共同利用可能であることを立証  全庁業務量調査 ・全組織における負荷傾向の把握 ・RPA等ICT適用対象候補の把握	業務効率化の大きい業務の選定  全庁業務量調査結果に基づく業務選定  業務量調査結果に基づき、高負荷でありICT適用可能かつ標準化対象17業務(住民基本台帳等)から選定。  各団体の業務プロセス・帳票比較	選定された業務の各団体の事務作業を比較検討  業務スタンス・帳票の最適化に重きを置いた標準化検討  ・団体間の業務スタンスの整合 ・標準化可能範囲の見極め  最適化の実現 実用可能な標準業務プロセス・帳票設定	効率的な業務の仕組みを構築  ICT共同利用実証によるモデル構築  RPA等共同利用の実証(RPAシナリオ/部品の共同化)  長野県内市町村 ICT共同利用モデル 					

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし]						区分(単位:千円)					
No	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度末	R3年度目標値	事業コスト	R1年度	R2年度	R3年度		
1	デジタル相談窓口利用件数	-	-	-	3,650		前年度繰越	0	0	0	
2	各地域で活動する取組と連携したイベント延べ参加者数	-	-	-	450		当初予算	2,657	90,485	33,801	
3	NaganoFledge延べ参加者数	-	-	-	1,500		補正予算	9,164	12,479	29,384	
4	(参考指標) アプリコンテスト参加応募作品数	68件	74件	↑	119件		↑	合計(A)	11,821	102,964	63,185
5	(参考指標) ハッカソン参加人数	-	17人	-	-		-	うち一般財源	2,398	14,522	27,227
6	(参考指標) 実証によるデマンドシステム利用者満足度	-	1	-	-		-	決算額(B)	10,693	90,996	
7	(参考資料) 御嶽山「二ノ池周辺登山道」における携帯電話不感地域	-	-	解消	-	-	職員数(人)	7.0	7.0	7.5	
成果指標設定理由	1デジタル相談窓口の利用件数を設定。 2,3各地域で活動する取組と連携したイベント延べ参加者数及びNaganoFledgeの延べ参加者数。 4,5未来の長野県を担うICT人材の育成を支援するアプリコンテストの参加応募作品数及びハッカソンの参加人数を設定。 6実証によるデマンドシステムの有用性を評価するため、利用者満足度を設定。 7御嶽山「二ノ池周辺登山道」における携帯電話不感地域の解消を設定。										

事業番号	02 04 01	事業改善シート（令和3年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input checked="" type="checkbox"/> 補正予算案 <input type="checkbox"/> 点検			
事業名	地域情報化推進事業費		部局	企画振興部	課・室	D X推進課	
細事業No.	細事業名	R1年度最終予算		R2年度最終予算		R3年度予算	
1	D X推進体制強化事業					当初予算	6,600
						補正予算	0
		計	0	計	0	計	6,600
		千円		千円		千円	
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)				
1	デジタルに関する専門人材を有する調査会社等からの助言・指導業務	委託	I C Tに関する最新かつ専門的な知識を有する調査会社等から助言・指導を受け、専門性の高い職員を育成				
細事業No.	細事業名	R1年度最終予算		R2年度最終予算		R3年度予算	
2	デジタル相談窓口構築・運用事業					当初予算	13,617
						補正予算	0
		計	0	計	0	計	13,617
		千円		千円		千円	
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)				
1	デジタル相談窓口構築・運用事業	委託	県民及び企業に対して、時間や場所にとらわれない相談対応を行うため、必要なシステムの構築及び運用				
細事業No.	細事業名	R1年度最終予算		R2年度最終予算		R3年度予算	
3	デジタル人材育成・誘致事業					当初予算	11,149
						補正予算	0
		計	0	計	0	計	11,149
		千円		千円		千円	
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)				
1	デジタル人材育成応援イベント開催事業	委託	各地域で活動するI T関連の人材育成団体が相互連携できる機会の提供及びデジタル人材育成応援イベント「Nagano Fledge」を開催				
細事業No.	細事業名	R1年度最終予算		R2年度最終予算		R3年度予算	
4	先端技術活用推進事業					当初予算	2,435
						補正予算	0
		計	1,720	計	1,660	計	2,435
		千円		千円		千円	
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)				
1	先端技術活用推進経費	直接	職員の旅費、事務消耗品等				
細事業No.	細事業名	R1年度最終予算		R2年度最終予算		R3年度予算	
5	自治体行政スマートプロジェクト事業					当初予算	0
						補正予算	29,384
		計	0	計	0	計	29,384
		千円		千円		千円	
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(予定)				
1	自治体行政スマートプロジェクト事業	委託	AI・RPAの共同導入による定型作業の自動化など、ICTを活用した効率的な業務の仕組みを構築するため、市町と共同で、各団体間の業務プロセスの標準化を実証				